

平成19年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 ニギス

学名 *Glossanodon semifasciatus*

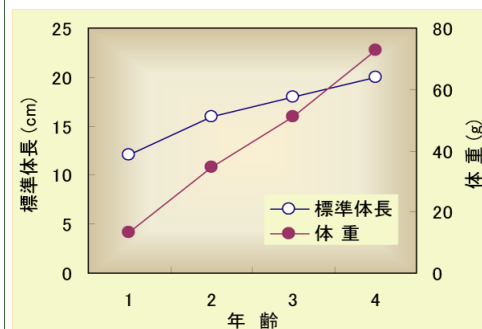
系群名 日本海系群

担当水研 日本海区水産研究所



生物学的特性

寿命: 5歳
成熟開始年齢: 1.5歳
産卵期・産卵場: 周年産卵、産卵のピークは春季と秋季、産卵場は不明
索餌期・索餌場: 周年、水深100～200m
食性: オキアミなどの浮遊性小型甲殻類
捕食者: ヒラメ、ソウハチ、ムシガレイ、アカムツ等が報告されているが、詳細は不明

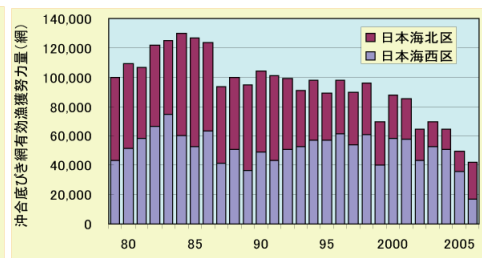
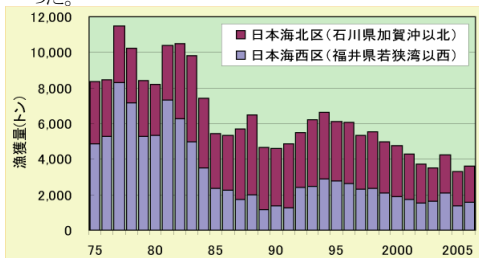


漁業の特徴

本種の主な漁場は青森県～島根県の日本海沿岸と、愛知県および高知県の太平洋沿岸であるが、日本の漁獲量の7～8割が日本海沿岸で水揚げされている。本州沖合の日本海において、本種は水深100～200mに分布しており、主として沖合底びき網と小型底びき網で漁獲されている。日本海では、新潟、石川、兵庫、島根の4県でニギスを多く漁獲し、これら4県の漁獲量は日本海側の総漁獲量の約9割を占めている。

漁獲の動向

総漁獲量の推移をみると、1975～1983年までは10,000トン前後で推移していたが、1984年以降急減し、1990年には約4,600トンまで減少した。1991年以降は一旦増加に転じ、1994年に約6,600トンとなったが、その後再び減少傾向となった。最近5年間は横ばいまたは若干減少の傾向にあり、2006年は前年よりも約300トンほど増加し3,585トンであった。



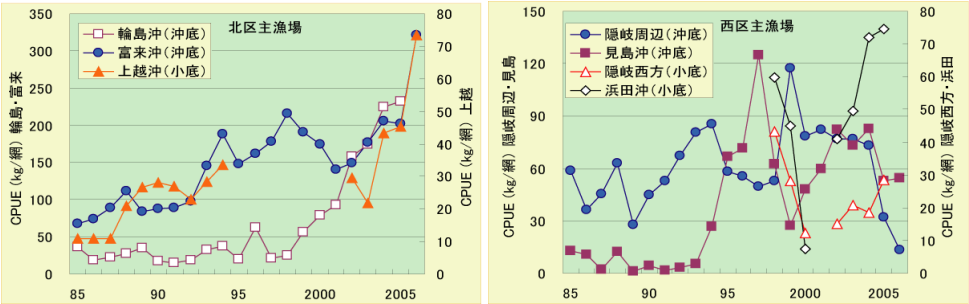
資源評価法

これまで沖合底びき網(沖底)の資源密度指数(漁区別1網あたりの漁獲量の平均値)を指標として資源評価を行ってきたが、沖底の全漁獲量に占める割合が近年低下していること、漁獲量の多い新潟県、島根県ではほとんどが小型底びき網(小底)で漁獲されていることから、主漁場の資源状態と沖底の資源密度指数をあわせて資源評価を行うこととした。

資源状態

北区(石川県以北)を見ると、新潟県と石川県の主漁場におけるCPUEは過去最も高い値を示していることから、資源状態は良いと判断した。西区(福井以西)の主漁場では、隠岐周辺の沖合底びき網漁場のCPUEが低下していたが、隠岐西方および浜田沖の小型底びき網主漁場および見島沖の沖合底びき網漁場のCPUEは中位水準以上であった。また、沖合底びき網の資源密度指数も中位水準以上であることから、2006年に懸念されたほどは資源状態は悪化していないと判断した。





管理方策

北区(石川県以北)では資源状態は良好であり、各主漁場および沖合底びき網の努力量が減少していることから漁獲圧も低いと考えられ、現状を維持しても良いと判断した。西区(福井県以西)では資源状態は中位水準であるが、各主漁場および沖合底びき網の漁獲努力量は減少ないしは低い状態で横ばいであるため、北区同様漁獲圧は低いと考えられた。そこで現状を維持しても資源状態の急激な悪化はないと判断した。海域全体では資源水準は中位、動向は横ばいであり、過去2年間の平均漁獲量をABClimitとし、その9割をABCtargetとした。

	2008年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	3,400	Cave2-yr	—	—
ABCtarget	3,100	0.9Cave2-yr	—	—

資源評価のまとめ

- 北区は資源状態も良く、漁獲圧も低い状態にある
- 西区の資源状態は2006年に懸念されたほどは悪化していない
- 西区の漁獲圧も低い状態にある

管理方策のまとめ

- 北区西区ともに現状の漁獲圧を維持
- 昨年は海域別にABCを算出したが、本年は海域全体のABCに戻した

資源評価は毎年更新されます。